

共同参画



内閣府

Special Feature

特集／「男女共同参画社会に関する世論調査」結果の概要



主な予定

Schedule

12月13日、14日	WAW!2016（東京都港区）
平成29年1月19日	ダイバーシティ・マネジメントセミナー（東京都千代田区）
平成29年1月26日	「企業×女性起業家のマッチングイベント ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんです ―WEPS（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けて―」（東京都中央区）
平成29年1月30日	女性のための公務研究セミナー（京都大学）
平成29年2月3日	ダイバーシティ・マネジメントセミナー（大阪府大阪市）
平成29年2月10日	女性のための公務研究セミナー（お茶の水女子大学）

巻頭言

共同参画に寄せて

Foreword

国立大学法人
お茶の水女子大
学長、男女共同
参画推進連携会
議議長
室伏 きみ子



Murofushi Kimiko

お茶の水女子大学には、現在、以下の3施設が並存し、各々の特色を活かした乳幼児教育を行っている：附属幼稚園、附属いずみナーサリー、文京区立お茶の水女子大学こども園。芝生を敷いた中庭等を子ども達の遊び場に開放していることもあって、学内を歩き来する際に、楽しく遊ぶ子ども達や保育士の方々と遭遇する機会も多く、子ども達の無邪気な笑い声は私たちに元気を与えてくれる。幼稚園とこども園は一般の方々向けの施設であるが、ナーサリーは2002年に学内保育所として設置され、2005年から附属施設として運営を安定化したもので、教職員と学生達のための子育て支援施設として活動を続けている。学部学生と大学院生には、保育料の2分の1を大学から支援しているが、某企業経営者の方から「こんな素晴らしい女性支援策は他にはない」とお褒め頂き、学生たちへの支援を当然の事と思っていた私たちは少々驚いた経験がある。こうしたささやかな支援策がどこでも当たり前を実施されるようになることが、男女が真に協働できる社会作りに役立つのではないかと思っている。

目次

Contents

特集	「男女共同参画社会に関する世論調査」結果の概要	Page 02
行政施策トピックス1	男女共同参画推進連携会議 全体会議の開催	Page 06
行政施策トピックス2	「議会における女性活躍及びメディアにおける男女共同参画について聞く会」の開催	Page 08
行政施策トピックス3	「未来貢献プロジェクト 男女共同参画シンポジウム」の開催	Page 10
行政施策トピックス4	「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会（第1回）」の開催	Page 11
連載	女性の経済的エンパワメント・各国の取組⑧ 決定権をもって使う／大西 祥世（立命館大学法学部教授）	Page 12
取組事例ファイル（自治体編）	三重県	Page 13
取組事例ファイル（団体編）	「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組 田中 孝司（KDDI株式会社 代表取締役社長） 日比野 隆司（株式会社大和証券グループ本社 代表執行役社長 最高経営責任者（CEO）） 横手 喜一（株式会社ポーラ 代表取締役社長）	Page 14
ニュース&インフォメーション	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー報告 他	Page 16
男女共同参画センターだより	奈良県女性センター	



「男女共同参画社会に関する世論調査」 結果の概要

内閣府男女共同参画局総務課

内閣府では、数年おきに、「男女共同参画社会に関する世論調査」を実施しており、本年夏に調査した結果を10月に公表しました。前回は平成24年の実施でしたが、平成26年に「女性の活躍推進に関する世論調査」を実施した際に、いくつかの調査項目は継続して調査し、数値を得ています。

これまでの調査との大きな違いは、今年度の世論調査から、対象年齢が20歳以上から「18歳以上」に引き下げられたことです。ここでは、いくつかの結果について御紹介します。

なお、今回調査は標本数5,000人に対し、有効回収数3,059人（61.2%）でした。うち男性1,404人（45.9%）、女性1,655人（54.1%）でした。

(1) 女性の就業継続を支持する考え方が男女共に初めて50%超えに (図表1)

一般に女性が職業をもつことについての考え方を問う質問では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」といういわゆる就業継続を支持する回答が54.2%と最も多く、次いで「子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(26.3%)となっています。男女別にみても、男性が52.9%、女性が55.3%となり、全体の数値でも、男女別の数値でも揃って50%を超えたことは初

めてです。

時系列的にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との考え方は、これまで増加傾向にあり、24年調査では47.5%でしたが、26年調査では44.8%と減少しました。今回は大きく数値を回復しました。こうした結果は、女性が職業をもつことを肯定的にとらえる考え方が、男性も含めて、より一般的になったことによるものではないかと考えられます。

(2) 固定的性別役割分担意識は、「賛成」が過去最少に (図表2)

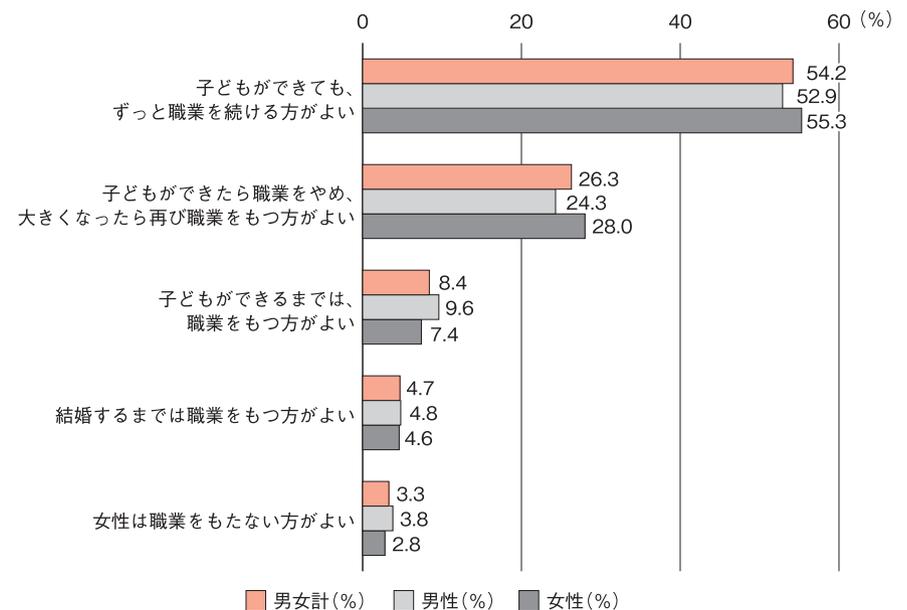
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方、いわゆる

固定的性別役割分担意識を問う質問では、「賛成」は40.6%と、過去最少の割合となりました。

「反対」は54.3%となり、こちらは過去最多とはなりませんでしたが、歴代2番目に高い数値となりました。これまで長期的には「賛成」が減少傾向、「反対」が増加傾向となる中で、24年調査においては、「賛成」と「反対」が逆転したものの、26年調査では再度反転し、今回も引き続き、「反対」が「賛成」を上回っています。

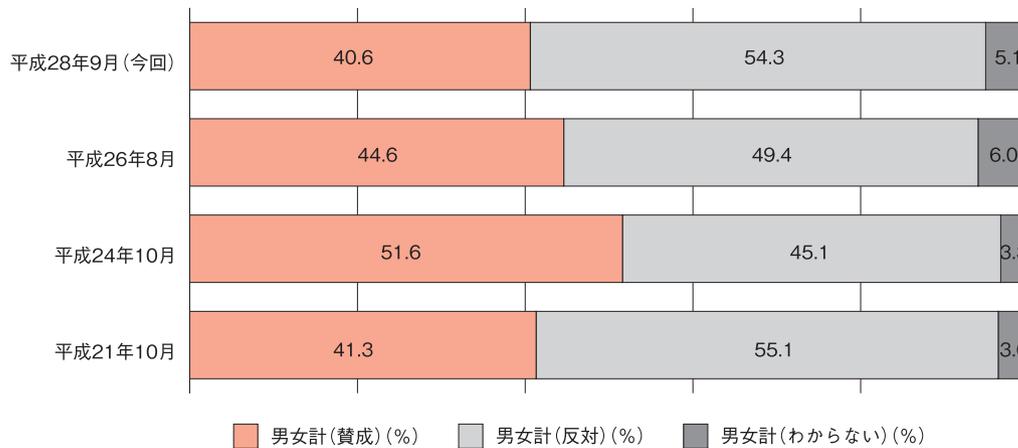
「賛成」もしくは「反対」と考える理由についてもあわせて聞きましたが（複数回答）、その結果をみると、「賛成」とする理由としては、「妻が家庭を守る方が、子どもの成長などに良い」が60.4%、「両立し

図表1 女性が職業を持つことについて

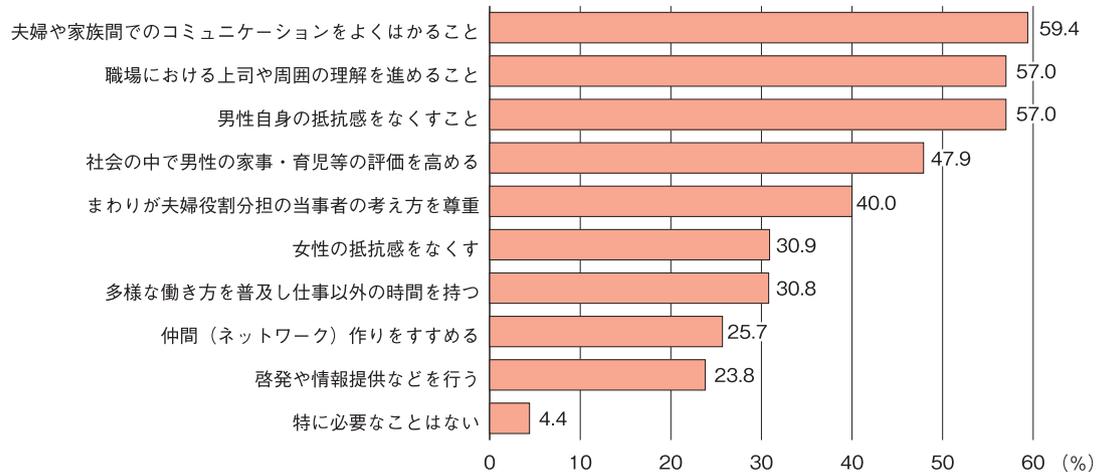


内閣府は、平成28年10月、「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果を公表しました。ここではその概要をご紹介します。

図表2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方



図表3 男性が家事・育児に参加するために必要なこと



ながら、妻が働き続けることは大変」が45.6%となっています。また、「反対」とする理由としては、「固定的な役割分担意識を押し付けるべきではない」が52.8%、「妻が働いた方が、個人や社会にとって良い」が46.8%となっています。

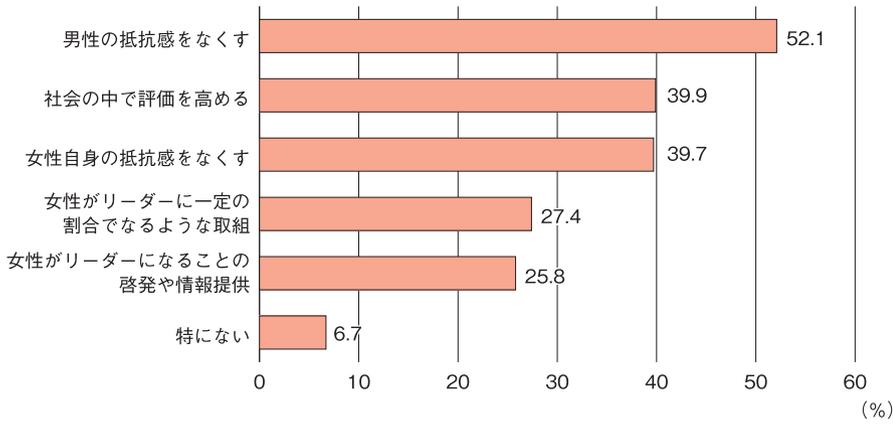
(3) 男性の家事・育児への参加には夫婦のコミュニケーションが必要(図表3)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要と思うかを問う質問では(複数回答)、「夫婦や家族

間でのコミュニケーションをよくはかること」(59.4%)との回答が最も多く、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」(57.0%)、「男性自身の抵抗感をなくすこと」(57.0%)となっています。2番目に多かった「職場における上司や周囲の理解を進めること」は前回

「男女共同参画社会に関する世論調査」結果の概要

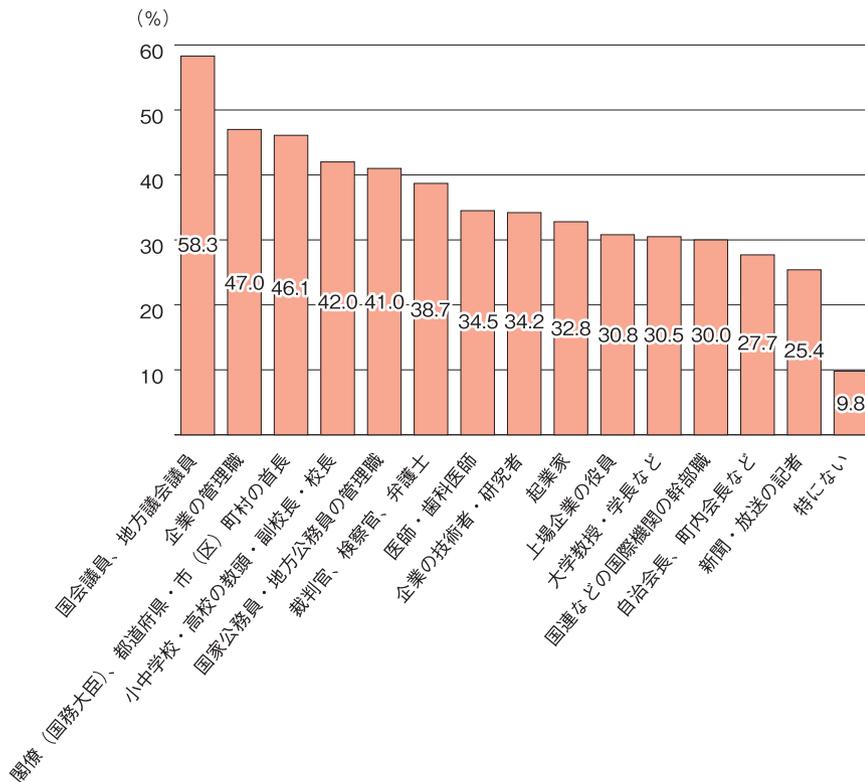
図表4 女性が地域社会のリーダーになるために必要なこと



(24年調査)では選択肢になかったのですが、今回支持が多いことが確認できました。

最も多かった「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については、男女共同参画局が先般公表した「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」の趣旨と合致するものです。このシートの活用が広がることで、夫婦間のコミュニケーションが一層はかられることが期待されます。

図表5 女性が増えるとういと思う職業・職種



(4) 女性が地域活動のリーダーになるためには (図表4)

今回調査では初めての設問もありました。その一つ、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思うかを問う質問では(複数回答)、「男性の抵抗感をなくすこと」(52.1%)との回答が最も多く、次いで「社会の中で女性がリーダーになることについてその評価を高めること」(39.9%)、「女性自身の抵抗感をなくすこと」(39.7%)等となっています。

「男性の抵抗感をなくすこと」の回答を男女別にみると、男性が54.1%、女性が50.5%という結果でした。

(5) 女性が増える方がよいと思う職業や職種 (図表5)

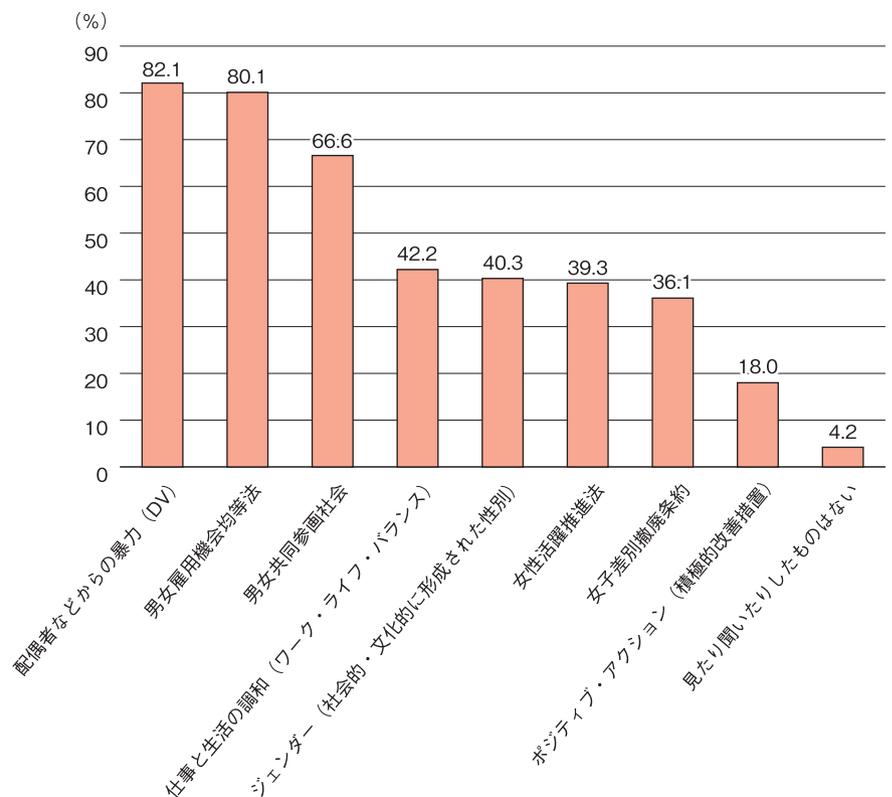
職業や役職について今後女性も

っと増える方がよいと思うのはどれか、という質問はこれまで選択肢を見直し、入替えながら継続してきました。今回新たに「小中学校・高校の教頭・副校長・校長」、「医師・歯科医師」、「企業の技術者・研究者」を加えたところ（複数回答）、「国会議員、地方議会議員」（58.3%）が最も多く、次いで「企業の管理職」（47.0%）、「閣僚（国務大臣）、都道府県・市区町村の首長」（46.1%）、「小中学校・高校の教頭・副校長・校長」（42.0%）、「国家公務員・地方公務員の管理職」（41.0%）等となっています。政治分野や企業、行政における管理職などの女性がもっと増える方がよい、という回答が多くなりました。

(6) 男女共同参画に関する用語の認知度 (図表6)

男女共同参画に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを問う質問も、これまで継続して調査してきました。今回調査（複数回答）でも、「配偶者などからの暴力（DV）」が82.1%、「男女雇用機会均等法」が80.1%と8割を超える高い認知度がありました。次いで「男女共同参画社会」（66.6%）、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」（42.2%）、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（40.3%）等となっています。今回新たに選択肢に加わった

図表6 男女共同参画に関する用語の認知度



「女性活躍推進法」は39.3%となりました。概ね24年調査から数値が上昇する結果となりました。

最後に

今回調査では、これまでに紹介したもののほかに、男女の平等感、ワーク・ライフ・バランス、女性に対する暴力、JKビジネス、旧姓使用などについての意識を問いました。

これら調査結果については、女性の活躍推進及び男女共同参画社会の形成の促進に向けた施策の検討及び

実施に係る参考資料として活用していきます。

今回調査結果の詳細につきましては下記URLを御参照ください。

<http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-danjo/index.html>



男女共同参画推進連携会議 全体会議の開催

内閣府男女共同参画局総務課

男女共同参画推進連携会議（以下「連携会議」）は、男女共同参画社会づくりに関し、広く各界各層に所属する議員が情報・意見交換を行いつつ、必要な連携を図り、男女共同参画に関する国民的な取組を推進するため、平成28年9月3日に発足しました。

現在、18人の有識者議員と、全国で活動を展開している様々な団体から推薦された98人の議員で構成されており、政府の施策や国際的な動き等をもとに男女共同参画社会の実現に向けた取組を積極的に推進しています。

このたび、第35回全体会議が平成28年10月13日(木)、中央合同庁舎8号館講堂（東京・千代田区）にて開催されましたので、議事内容について報告します。

■議長の選出

会議冒頭、昨年全体会議以降に新たに就任された議員の紹介がありました。続いて、議員による議長の互選が行われ、室伏さきみ子氏（国立大学法人お茶の水女子大学学長）が議長に就任されました。

■最近の男女共同参画に関する動きについて説明

武川恵子男女共同参画局長より、平成27年12月25日に閣議決定した第4次男女共同参画基本計画や、平成28年4月1日に完全施行された女性活躍推進法及びその施行状況等についての説明がありました。

■平成27～28年度活動報告

議長から平成27～28年度の連携会議の全体的な活動報告があり、さらに3つのチーム活動に関して、それぞれのチームメンバーである有識者議員より報告いただきました。

①「女性のエンパワーメント促進」チーム 活動報告

明石伸子議員（特定非営利活動法人日本マナー・プロトコール協会理事長）より、本年3月に行われた「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者ミーティング及び第8回WEPs年次会合、中小企業における女性活躍推進施策の好事例等の共有を行ったことや、今後は、同行動宣言の地域における展開事例の共有等を行い、同行動宣言及びWEPsの理解促進や女性のエンパワーメント促進に向けた方策を検討していくことの報告がありました。

②「女性の起業支援」チーム 活動報告

横田響子議員（株式会社コラボラボ（女性社長.net企画運営）代表取締役）より、女性起業家支援団体や女性起業家をチーム会合に招き、女性起業家を取り巻く課題について情報共有を行ったことや、今後は、内閣府ホームページに掲載している各都道府県の女性の起業支援施策の更新等を行い、女性起業家の好事例や起業家支援情報を整理・発信するとともに、女性起業家に必要な支援や、関係団体との連携等について検討していくことの報告がありました。

③「次世代への働きかけ」チーム 活動報告

大崎麻子議員（株式会社ソフィア研究所シニアコンサルタント）より、次世代への働きかけに関する現状と課題の共有、教員等を招いて学校における取組事例の共有、自治体における取組の調査の検討を行ったことや、今後は、民間団体等における事例の共有等を行い、若年層への働きかけに関する情報を整理し、発信することを検討していくことの報告がありました。



全体会議の様子
約70名の連携会議議員が参加し、活発な意見交換が行われた。



新議長の室伏さきみ子氏



加藤大臣挨拶

■「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」報告

平成27年度に全国で実施した8団体との共催イベントの概要が報告されました。あわせて平成28年度も、以下の通り、6つのシンポジウム等を行うことが報告されました。

詳細はこちら↓

<http://www.gender.go.jp/public/event/2016/renkeievent.html>

■今後の連携会議の活動方針

昨年10月に行われた全体会議において決定した平成27～29年度の連携会議の活動方針について、議長より、活動をさ

らに活性化するための改訂案が示され、チーム活動において、議員の所属団体の取組について積極的に情報発信する場を設けること等を新たに盛り込んだ活動方針が了承されました。

■グループディスカッション

「男女共同参画社会の実現に向けた課題と、課題解決のために連携会議議員として取り組んでいきたいこと」をテーマに、小グループに分かれてグループディスカッションを行いました。出席者からは「男女共同参画を社会に浸透させるためには、各団体で啓発活動を進めるべきである。本日の機会を活かし、今後とも各団体との交流を進め、男女共同参画社会づくりに貢献したい」などの積極的な意見が出されました。

■加藤大臣挨拶

会議の最後に、加藤女性活躍担当大臣から、「安倍内閣が掲げる一億総活躍社会を実現していく上で、女性活躍は大変大きな柱である。昨年12月には第4次男女共同参画基本計画を閣議決定し、本年5月には『女性活躍加速のための重点方針』を策定した。また、女性活躍推進のためのメイン・エンジンともいべき女性活躍推進法が本年4月に完全施行され、同法に基づく認定等を受けた企業等を国の調達において加点評価するなど、政府全体で取組を進めている。連携会議は分野・職域の垣根を越え、社会の各界各層の皆様が集まっていたいただいているところが大きな特徴であり、強みである。皆様には、本日の会議の成果も反映し、それぞれの分野において、社会全体の機運を一層高めるべく、様々にお取り組みいただくことを期待している」とのメッセージがありました。

平成28年度 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業（6件）

番号	1	2	3	4	5	6
主催団体 (連携会議構成団体のみ)	特定NPO法人日本BPW連合会	日本弁護士連合会	特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会	一般社団法人日本女性科学者の会	一般社団法人日本ヒーブ協議会	一般社団法人東京ニュービジネス協議会
タイトル	女性が活躍する時代をつくるのは誰か～北海道発！203050への道筋～	女子中高生のみならずへ、女性の裁判官・検察官・弁護士の仕事や働き方ってどんなかな？	いま期待される女性のリーダーシップとは～女性のリーダーシップで社会が変わる、社会を変える～	自然と科学が拓く地域の未来、あなたの未来	多様な職場から見える男女共同参画の課題とヒント～生活者視点で目指す消費者志向経営～	企業×女性起業家のマッチングイベントビジネスにも運命の赤い糸ってあるんです
内容	<ul style="list-style-type: none"> 基調講演「ジェンダーを超えて～私たちに何ができるのか～」 リレートーク グループ討議 「北海道アビール」の採択 	<ul style="list-style-type: none"> 基調講演「女性法律家の魅力～そのやりがいを語る～」 パネルディスカッション「女性法律家のさまざまな働き方」 中高生向けグループセッション 保護者・教員向け説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 基調講演 パネルディスカッション「私の歩んだ道～そして未来を拓く」 	<ul style="list-style-type: none"> 医師、民間企業経営者、NPO法人理事長等による基調講演 パネルディスカッション「社会で役立つ理系の勉強未来の仕事を見よう！」 	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画で実現された消費者志向経営の事例報告、パネルディスカッション ワールドカフェ（ヒーブカフェ）「ワークライフシナジーから生まれた新しい市場価値を、どのように企業に反映させるか」 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度のマッチング実績紹介 トークセッション1「全国各地で活躍する女性起業家の取組事例」 トークセッション2「女性起業家と取引企業によるコラボレーション事例紹介」 ミニ交流会 プレセッションセッション
日時	平成28年11月19日(土) 13:30～16:30 (開場13:00)	平成28年11月23日(水・祝) 13:00～16:00 (開場12:30)	平成28年12月1日(木) 13:30～16:15 (開場13:00)	平成28年12月3日(土) 13:00～17:00 (開場12:30)	平成28年12月9日(金) 13:30～17:00 (開場13:00)	平成29年1月26日(木) 13:00～17:45 (開場12:30)
場所	札幌市男女共同参画センター（北海道札幌市）	早稲田大学大隈記念講堂小講堂及び教室（東京都新宿区）	上智大学四谷キャンパス2号館17階 国際会議場（東京都千代田区）	高山市民文化会館（岐阜県高山市）	丸の内 MY PLAZA ホール（東京都千代田区）	イトーキ東京イノベーションセンター「SYNQA（シンカ）」（東京都中央区）
対象者	一般市民、関係団体（定員：150名）	中学生、高校生、保護者、教員（定員：300名）	企業関係者、スポーツ団体関係者、教育関係者、地域活動団体関係者、一般参加者（定員：350名）	中学生、高校生、保護者、中学高等学校教員、行政関係者、一般市民（定員：200名）	一般市民、中小企業経営者、大学生、大学職員等・関係団体（定員：200名）	女性起業家、一般企業、一般市民（定員：300名）
他の主催者等	<ul style="list-style-type: none"> BPW札幌クラブ 北海道女性医師の会 公益社団法人日本女医会 	<ul style="list-style-type: none"> 早稲田大学 日本女性法律家協会 	<ul style="list-style-type: none"> 上智大学 公益社団法人ガールスカウト日本連盟 一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワーク 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知大学 国立大学法人岐阜大学 岐阜薬科大学 岐阜女子大学 国立大学法人名古屋工業大学 		<ul style="list-style-type: none"> J300実行委員会



「議会における女性活躍及びメディアにおける男女共同参画について聞く会」の開催 内閣府男女共同参画局総務課

10月17日(月)、「議会における女性活躍及びメディアにおける男女共同参画について聞く会」が中央合同庁舎8号館講堂(東京都千代田区)で開催されました。

「聞く会」は、男女共同参画推進連携会議企画委員会が主催して行う公開シンポジウムで、これまでも男女共同参画に関する時宜に応じたテーマをもとに、国内外の講師を招いての講演や参加者との意見交換を行っています。

今回は政治分野およびメディアにおける男女共同参画をテーマに、第一部では、元欧州議会副議長、WIP(Women in Parliaments Global Forum)創設者・会長のシルバナ・コッホ＝メーリン氏による基調講演、第二部では、テレビメディアで活躍されている、熊埜御堂朋子氏(日本放送協会編成局編成主幹)、平田さおり氏(TBSテレビ制作局制作一部部次長)、田代早苗氏(日本女性放送者懇談会、日本テレビ日テレラボ室長)をパネリストに迎え、「テレビメディアにおける女性活躍」と題して、パネルディスカッションが行われ、最後に2016年APEC「健康な女性と健全な経済」実施に向けてのワークショップ、SDGs、G7伊勢志摩サミット関係閣僚会合、日米韓女性フォーラムについて、報告がありました。

【第一部】

司会の大崎麻子氏(男女共同参画推進連携会議企画委員)からの紹介の後、壇上に立ったシルバナ氏は、WIPを創設した経緯について「欧州議会の副議長を務めた経験から、女性が共同し、互いの課題を共有していくことの重要性を認識した。政治を行う女性は少数派であり、その少数派であることに負けないように力を合わせ、一緒に前進することが大切」

と述べられました。

続いて、WIPの様々な活動について紹介がありました。

① WIPの各国大使の役割

WIPでは国内における変革を促すため、各国に大使を任命している。女性活躍に関する調査、研究、キャンペーン等を実施するに当たって、それぞれの議会に対して働きかけを行ったり、大使同士が協力し、2か国の国会議員が国を越えて交流を深めたりしている。

② グローバルサミットの開催

政治分野における男女平等に関するイベントを様々な国で開催しており、毎年300～400人ほどの女性議員が出席している。例えば、2014年にはアイスランドで、男女平等が一番進んでいると言われる同国から何を学べるかをテーマに、また、2015年にはメキシコで、法制度、憲法を変えて男女の比率を等しくすることをテーマに会合を実施した。

③ アドボカシー活動

女性の政治参画が、世界各国で国のアジェンダとなるよう関心を高めていきたいと考えている。例えば、3月8日の「世界女性の日」に併せ、「メイク・イット・ハプン」というキャンペーンを展開した。本年は、全ての女性議員に男性の同僚を少なくとも1人、あるいはもっと探して、ツイッターのポストカードで男性から、女性をより政治に参画させるために何をやっているかを書いてもらい、キャンペーンに参加してもらった。

④ 研究活動

女性の政治キャリアについての研究も行っている。まずは、女性が選挙に出ることを禁止している、あるいは当選することを禁止している国の数は少ないのに、なぜ女性が政治に参画しないのか、あるいは政治に参画し続けないのかというこ



シルバナ・コッホ＝メーリン氏による基調講演

とを研究した。その結果、政治分野で活躍する女性は、「男性、お金、マスコミ」という3つに女性が苦しめられていることが明らかになった。

WIPの取組に関する説明の後、「経済的にも女性を引き立てていくことには非常に大きなメリットがある。また、長期的、安定的な意思決定をしていく上でも同様。男性と同じ数の女性が意思決定に参画してもらうことは大切。いろいろな観点から女性参画の有効性が語られており、私たちは行動に移していく時期にきている。」とのメッセージを送り、講演を締めくくられました。

【第二部】

パネルディスカッションのコーディネーターは牛尾奈緒美氏（明治大学副学長（広報担当）・情報コミュニケーション学部教授）に務めていただきました。

始めに「意思決定を行う女性の数は、具体的に増えていると感じますか。」という問いには、皆さん管理職としては少ないというお答えでしたが、テレビ局特有の、番組制作の責任者として大きな権限をもつプロデューサーや演出家は非常に増えてきている、とのことでした。

それを踏まえ「意思決定者に女性が増えることで、番組づくりは変わってきていますか。」との問いには、平田氏から「女性視聴者に共感してもらえる番組づくりには、女性が大いに貢献できていると思う。」、熊埜御堂氏からは「ワークライフバランス、ダイバーシティは社会を変えていく非常にチャンスのある言葉。そんな実感を仕事にフィードバックできたらと思うのは私が女性だからかもしれない。」と答えられました。

女性がこれから管理職、さらに上の役職へと向かっていくときの課題については、ロールモデルが少ないことに加え、意識についての話が出ました。田代氏からは「女性は輝いて働いてくださいと言われます。なぜ女性だけがそう言われるのか、普通に働かせてくださいと言いたい。それには会社も職場もお互いが理解していることが大事。」、平田氏からは「クリエイターとしてはもっともっと仕事をやりたい一方、子供と向き合う時間が削られる、母親としてこういう働き方でいいのかなといった葛藤があると思う。それを乗り越えられる世代が増えたら変わっていくと思います。」、熊埜御堂氏からは「最近、管理職を見て責任ばかり増えて何が楽しいのという意識が男性にも女性にもあります。そういう時に、ここまで来て見える世界はこうなのよということを意識的に発信して、無意識に持ってしまうハードルを下げてあげたい。」とお話いただきました。

最後に「女性管理職が増えていくことによるテレビ放送や番組の可能性について」という質問には、平田氏からは「女性にしかできない妊娠や出産という素晴らしい経験をアウトプットに生かすことができる女性のクリエイターが増えることで、テレビにも新しい可能性がある。」、熊埜御堂氏からは「誰にも将来像が描けずこれまでの固定観念ややり方が通じなくなる時代がこれからの三、四年。だからこそ、女性にとってチャンスだと思う。」、田代氏からは「組織の健全性というのは多様性が支えるものだと思います。多様性を生み出す一歩として女性が担わなければいけない役割というのはあるだろうと感じています。」と答えられ、ディスカッションは締めくくられました。



放送業界で活躍する女性によるパネルディスカッション



「未来貢献プロジェクト 男女共同参画シンポジウム」の開催 内閣府男女共同参画局総務課

「未来貢献プロジェクト」とは2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に取組まれる様々な国づくり、まちづくり、人づくりへの取組を、東京オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）として広く社会・国民に訴求することを目的とした読売新聞社のプロジェクトです。その一環として10月29日に東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）井上円了ホールにおいて「男女共同参画シンポジウム」が開催されることになり、菅義偉内閣官房長官と加藤勝信女性活躍担当大臣、内閣府特命担当大臣（男女共同参画）が基調講演を行いました。

東洋大学でこのシンポジウムが行われるのは、100年前に私立大学としては初めて女子学生が入学したことを記念するものです。

【第1部】

このシンポジウムは2部制で構成されており、第1部は「女性エンパワメント未来を拓くダイバーシティ ―東洋大学の女子学生入学から100年―」と題して、「女性活躍によるダイバーシティ」をテーマに菅内閣官房長官が30分間の基調講演を行いました。

続いて「未来を拓くダイバーシティ―産官学で考える―」をテーマに、東洋大学が分析した日本企業におけるダイバーシティ進展度のデータを基にパネルディスカッションが行われました。

パネリストは、福嶋香代子氏（UN Women日本事務所長）、丸山誠治氏（NTTドコモ取締役執行役員 人事部長）、矢口悦子氏（東洋大学文学部長）、今村肇氏（東洋大学経済学部教授）の皆様、武川恵子内閣府男女共同参画局

長も参加しました。コーディネーターは東洋大学副学長の松原聡氏が務められました。

【第2部】

同会場で第1部に続き「理系女子に懸かる日本の未来」と題した第2部が開催されました。

「女性の社会進出の現状」をテーマに加藤大臣が30分間の基調講演を行いました。「多様な価値観によってイノベーションが創造される、活力にあふれる社会を実現するためには、女性の活躍は不可欠」であることなどを来場者に語りかけました。

続いて「イマドキ理系女子の最前線」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

パネリストには華房実保氏（三菱化学株式会社機能科学本部企画室グループマネージャー）、金子律子氏（東洋大学生命科学部長）、そしてタレントで東京大学大学院医学系研究科修士課程を修了されている八田亜矢子氏を迎えました。コーディネーターはフリーアナウンサーの政井マヤ氏が務められました。

華房氏は本年9月末まで内閣府男女共同参画局審議官を務められており、官と民の両方の立場からお話されました。

金子部長は大学における女子学生の理系選択について、八田さんは御自身の経験から率直な感想をお話されました。

このシンポジウムの詳細については、下記URLを御参照ください。
<http://www.yomiuri.co.jp/project/mirai/>



菅官房長官基調講演



加藤大臣基調講演



「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会（第1回）」の開催 内閣府男女共同参画局総務課

「第4次男女共同参画基本計画」及び「女性活躍加速のための重点方針」に基づき、働き方改革と表裏一体として女性活躍を活躍するために、男性の暮らし方・意識の変革に向けた調査研究を行うことを目的とした「男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会」を、男女共同参画会議の下に設置しました。

男女共同参画会議議員でもある家本賢太郎氏（株式会社クララオンライン代表取締役社長）を会長とし、以下の10名の有識者により構成されています。

和泉昭子氏（生活経済ジャーナリスト、キャリアコンサルタント）、伊藤清彦氏（公益社団法人経済同友会常務理事）、川島高之氏（特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン理事、特定非営利活動法人コチカラ・ニッポン代表）、古平陽子氏（電通総研主任研究員）、白河桃子氏（少子化ジャーナリスト、相模女子大学客員教授）、塚本利幸氏（福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科教授）、鍋山祥子氏（山口大学経済学部経済学科教授）、西本祥子氏（北九州市立男女共同参画センター・ムーブ所長）、三木智有氏（特定非営利活動法人tadaima!代表理事、家事シェア研究家）、山本裕介氏（Google株式会社ブランドマーケティングマネージャーWomen Willプロジェクト兼務）。（五十音順）

10月28日に第1回目の会合が開催され、厚生労働省からイクメンプロジェクトを、内閣府男女共同参画局は本年度開発した「夫婦が本音で話せる魔法のシート ○○家作戦会議」を活用した広報活動を紹介した後、佐賀県からは自治体の取組として「九州・山口ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン」について、キャンペーン動画「知事が妊婦に」篇も披露しながら紹介していただきまし

た。

続いて、4名の委員からプレゼンテーションが行われました。

始めに白河委員から、「男性の暮らし方働き方の改革が求められる理由」について、父親の育児休業に関する諸外国の事例などを挙げて発表されました。

和泉委員からは「ライフプランニング・キャリアプランニングの視点から見た、男性が能動的に家事・育児に参加する社会を作るにあたっての課題と解決策の方向性について」を発表されました。

西本委員からは、北九州市及び北九州市立男女共同参画センター（ムーブ）における男性の暮らし方・意識の変革に向けた取組について、地域特性も踏まえて発表されました。

三木委員からは、男性が能動的に家事・育児に関わるための課題について発表されました。

最後に、加藤大臣から「安倍内閣が掲げる『一億総活躍社会』を実現していく上で、女性の活躍は、その中核」、「男性の暮らし方・意識の変革は、働き方改革と表裏一体」、「特に、乳児用液体ミルクについては、男女共同参画会議の議長である官房長官からも政府全体として検討するよう発言があったことを踏まえ、今回の議題の一つに取り上げる。本専門調査会においては、広範な議論をお願いしたい。」などの趣旨の挨拶がありました。

この専門調査会の開催状況、資料、議事録等は下記URLを御参照ください。

http://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/kurashikata_ishikihenkaku/list.html



挨拶する加藤大臣

女性の経済的エンパワメント・各国の取組⑧ 決定権をもって使う

立命館大学法学部 教授 大西 祥世

2016年10月に世界経済フォーラムが発表した日本の男女平等度は、世界で111位でした¹。前年度から順位を6つ下げたことに驚きましたが、その要因は政治や経済分野において決定権をもつ女性の割合が他国に比べて極端に少ないことです。近年、日本でも女性活躍促進に積極的に取り組まれています。他の国ではもっと加速度を上げて前進しているので、結果的に日本の順位が下がりました。

現在の世界では、ビジネスの決定権をもつ取締役の女性割合がすでに30%超の目標に達していきいきとしている企業もあれば、トップが企業間の壁を越えて一緒に実現をめざす例もあります。「30%クラブ」²という2010年にイギリスで発足した企業トップの国内ネットワークは、女性が取締役として活躍する能力を習得するための支援プログラムを、そのキャリアの早期から実施して、実際に養成された人材を積極的に登用しています。業種を超えて、トップどうしで連携してこの課題に取り組むことが、自らのビジネスの基盤となる社会の持続的な発展に必要である、という問題意識から誕生しました。

フェイスブック社COOのシェリル・サンドバーグはその著書『リーン・イン』において、女性はチャンスが巡ってきても遠慮しがちであったり、責任を担うことに消極的であったりするので、もっと決定権をつかんで、実際に行使することに積極的になろうと呼びかけています³。自らのキャリア形成の経験と、経営者らしい視点からのメッセージです。

国内外の多くの企業では、取締役からすそ野を広げて、上級管理職や管理職の女性割合を増やすために積極的に取り組

んでいます。その主な方法は、たとえば、①候補者のプールを増やす、つまり、管理職の担い手候補者をなるべく多く養成すること、②パイプラインを明確に構築する、つまり、①によって増えた候補者が昇進する道筋をつけること、③上記①②を実現するために新規採用者の男女比を6:4にすること⁴です。雇用が流動的な欧米でも、新規採用者の男女比率を定めて、人材を養成しようという点が注目されます。

ところが、こうした取組を推進しようとすると、育児や介護の担い手である社員が優遇されて、その分の負担が他人に降りかかるために、「働きやすい職場づくり」とは真逆になってしまうこともあります。これは世界共通の課題です。

そこで、日本のある大手メーカーは、部長クラス以上では、自分の次にその職位に就く候補者3人を推薦する際に1人以上は必ず女性とするというルールを導入しました。そうするとふさわしい女性の社員を探して育てることになり、上記の①と②が円滑に進むようになりました。また、あるグローバルなコンサルティング会社は、男性がその働き方やビジネスの進め方を見直して構造を変える必要があるとして、2016年に男性がメンバーの80%を占める「主に男性のグループ」を立ち上げました。管理職の男性が、自らのハッピーなキャリアを積み重ねるための課題としてダイバーシティやインクルージョンの方法について議論をすることで、女性の活躍推進の実効性を高めようとしています。

こうした企業の努力がさらに活発になって拡がり、日本の男女平等度が反転して上昇すればうれしいと思います。



おおにし・さちよ／立命館大学法学部教授。博士(法学)。専門：憲法、ジェンダーと法・政策、議会法。国連「女性のエンパワメント原則」リーダーシップグループメンバーとして活動。主著：『女性と憲法の構造』（信山社、2006年）、「国連・企業・政府の協働による国際人権保障」国際人権27号（2016年）、「『政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない』の保障」立命館法学355号（2015年）等。

1 The World Economic Forum, The Global Gender Gap Report 2016, 2016.

2 <https://30percentclub.org>

3 シェリル・サンドバーグ『リーン・イン』（日本経済新聞社、2013年）。

4 UN Women, Corporate Parity Report 2016, 2016.



WIT2016 を開催して

5月に開催された伊勢志摩サミットでは、「女性の活躍推進は、G7の共通のゴールである」と首脳宣言がまとめられました。これを受け、9月23,24日に、F1開催などで知られるモータースポーツの聖地「鈴鹿サーキット」において、「あらゆる分野の女性活躍」をテーマにした「Women in Innovation Summit 2016 (以下WIT2016)」を開催しました。

オープニング

いにしえより伊勢神宮と縁があり、古代のキャリアウーマンであった「斎王」の登場とともに、WIT2016 はスタートしました。「チャンスは貯金できない。」主催者挨拶で鈴木知事はヘンリー・キッシンジャー氏の言葉を引用し、「チャンスが訪れたら躊躇せず、一歩前へ踏み出してほしい」と、あらゆる分野の女性に対するメッセージを伝えました。また「女性がチャンスに躊躇せざるを得ない社会環境を、この三重の地から変えていこう」と力強く呼びかけました。また来賓の豊田俊郎内閣府大臣政務官からは、「女性の活躍推進を加速させるため、より一層多様な働き方が可能となる社会を目指す」とのお言葉を頂戴しました。

セッション

カルビー株式会社や株式会社ローソンなどダイバーシティ経営に積極的に取り組む企業の経営者や、カーレーサー井原慶子さんをはじめ科学・技術系分野で成果を上げる「リケジョ」など、第一線で活躍されているパネラーの皆様をお招きし、テーマ別のセッションを開催しました。今求められているのは、「画一的な組織」ではなく「多様性を認め合う組織」。企業や組織の成長の源泉である「イ

ノベーション」には、「ダイバーシティ」が欠かせない。またそのために経営トップの強いコミットメントが有効であるという話は、大変説得力がありました。

また、これから科学・技術系分野で女性が活躍するためには、教育現場から、理系は就職先が少ないというイメージを打破し、選択肢の多さを伝える必要があること、技術を生み出すことだけに目が向きがちな女性技術者に、マネジメント層に上がることのやりがいを伝えていくべきなどのアイデアが出されました。

プロジェクトアワード「STAR SHOW」

WIT2016の目玉企画として、これからの時代に求められる女性の新しい働き方のモデルを競うアワード「STAR SHOW」を開催し、事前審査を通過した10名が「ファイナリスト」として登壇しました。女性の視点を生かした農福連携や新たな切り口での子育て支援など、三重らしいアイデアが沢山発表されました。

最後に

WIT2016を一過性のものとせず、発信されたさまざまなメッセージやアイデアを各々の立場で行動につなげるため、参加者一同による「共同宣言」を发出了しました。今後は、「STAR SHOW」のファイナリストを本県の女性活躍のロールモデルとして広く発信し、次に続く女性の掘り起こしにもつなげていきます。地方から生まれたこのWITの芽が、今後日本各地で開花し、女性活躍推進の大きなムーブメントにつながることを願っています。

「WIT2016」の開催概要は特設サイトからご覧いただけます。

<http://women-it.jp/WIT2016> 🔍検索



STEM分野で活躍する「リケジョ」の皆さんによるセッション



「STAR SHOW」ファイナリストの皆さん



参加者一同による「WIT2016共同宣言」

平成28年5月に開催された伊勢志摩サミットでは、心のふるさと伊勢神宮やリアス式海岸などの自然、忍者や海女といった文化に加え、伊勢海老・松阪牛・日本酒などの三重の「食」に世界の注目が集まり、今なお多くの反響をいただいています。

現在、三重県では「みえ食旅パスポート」キャンペーンを展開中。県内の650を超える「おもてなし施設」でさまざまな特典が受けられます。「美食大国・三重」の旅を是非オトクに楽しんでください。

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組

一昨年「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が公表され、現在130名を超える男性リーダーが本宣言に賛同しています。今回は3名の賛同者の取組を紹介します。

「変革」と「行動」で女性活躍推進を実現

KDDIは、社員一人ひとりの持つべき考え方、価値観、行動規範である「KDDIフィロソフィ」の一項目に、当社の目指す姿として「ダイバーシティが基本」と明記するとともに、中期経営計画に「社員力向上」を掲げ、経営戦略の一つとしてダイバーシティを推進しています。

また、少子高齢化が加速し、生産労働人口が減少していく中、誰もが「個」を生かした働き方ができる環境を提供することが企業の責務であると考えており、性別、障がいの有無、国籍、性的指向など多種多様な価値観を持つ人材がお互いを理解し、尊重しながら活躍できる企業となることを目指しています。

当社では、まずは女性活躍推進に注力し、2011年度に「2015年度末に女性ライン長（部下を持つ組織のリーダー）90名登用」を目標に掲げ、女性社員の意識

醸成やスキル向上の研修、職場での育成強化を実施して参りました。現在では100名以上の女性ライン長が誕生し、各部署で活躍しています。

今年度からは新たに「2020年度に女性ライン長200名登用」という目標を掲げ、一層の女性活躍推進の拡充を図ります。そのためには、男性リーダーは、女性が活躍しやすい環境整備と女性育成に対する意識向上を図り、女性は自らの能力を發揮、高める「行動」を起こすことが重要です。男性女性を問わず社員一人ひとりが「変革」することにより、女性活躍推進がさらに加速し、より豊かで明るい社会に成長していくことと確信しています。



田中 孝司
KDDI株式会社
代表取締役社長



女性社員向け各種研修、セミナーの様子

「女性が輝く会社を目指して」

当社グループでは、女性活躍支援は企業の持続的成長のために必要不可欠と考え、様々な取組を行ってきました。

女性活躍支援において大切なことは、男女を問わず能力を公平に評価し、責任のある職務を与えることと、各種支援制度を利用しやすい環境を整備することだと考えています。併せて、男性の意識改革や働き方改革も重要だと考えており、男性社員の育児・家庭参画についても積極的に促進しています。

近年では女性活躍を更に後押しするために、管理職手前の女性社員向けにキャリア支援研修（Daiwa Woman's Forum）を開催しています。これまでに約500名が参加し、ネットワークの構築にも寄与しています。また、社員のご家族にも会社や仕事について理解を深めてもらうため、「家族の職場訪問」を全国の部室店

で開催しており、今年度は約6,300名のご家族が参加しました。制度の利用状況の把握を目的として、毎年実施している両立支援アンケートでは、毎回6,000名を超える社員が回答しており、全ての社員が働きやすい環境の整備に繋がっています。

当社グループは、2005年度より女性活躍推進に取り組んでおりますが、昨年からの2020年度までの目標として、「女性管理職比率」「男性の育児休職取得率」「スキル研修受講者に占める女性比率」等、5つの項目を明確に設定しました。

私は、女性活躍は“Key Driver for Sustainable Growth”だと考えています。今後も引き続き、日本の金融界を牽引する女性リーダーの輩出に向けて、取組を加速させていきたいと考えています。



日比野 隆司
株式会社大和証券グループ本社
代表執行役社長 最高経営責任者(CEO)



職場訪問にて社員のご家族と名刺交換



「Daiwa Woman's Forum」の様子



横手 喜一
株式会社ポーラ
代表取締役社長



女性リーダーと共に



中長期ビジョン発表会の様子

企業経営のシフトを実現することで、女性の活躍を促進

少子高齢化を背景とした成熟化の進展と、グローバル・ボーダレス化による多様性を認め合うことの大切さが急激に高まっていく社会において、これからの企業に求められるのは、共創型の価値創造になると考えています。複数に開かれたコミュニケーションの中からお互いの気づきを引き出し、感性のスイッチを入れ、新しい成長への可能性を広げていくことが、創業から87年以上、一貫してお客様一人ひとりに向き合い、美しさを提供してきた私たちポーラにも求められてくるのです。こうした時代には、社会や仲間とのつながりを大事にし、お客様の気持ちに寄り添う感性にあふれた女性ならではのリーダーシップが欠かせないものになってきます。

では、女性ならではのリーダーシップ

を最大限に引き出すためにはどうすればいいのか？そのためには、様々な制度的な整備・支援も必要ですが、それ以上に、企業経営のスタイル・価値観を、より社会的で、より文化的で、より共創的なものにシフトしなければなりません。当社では、すでに全国で5万人のビジネスパートナーであるビューティーディレクターが共創型マネジメントを実践し、活躍しています。

こうした企業経営のシフトを実現することで、女性の活躍をさらに促進し、そのビューティーディレクターたちを目指すべきロールモデルとして、新たな女性リーダーを育て、社会に輩出していくことも、当社の社会的使命に他ならないと確信しています。

【御案内】「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組を紹介する報告書を作成します！

「共同参画」では、毎月「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言の賛同者の皆様に、所属団体における活動内容を紹介していただいています。

平成28年11月末には賛同者数は130名を超え、幅広い業界の組織トップの方々による、多様な取組が展開されています。

昨年8月に作成した、賛同者の皆様の好事例を取り纏めた報告書に続き、本年も賛同者の皆様の女性活躍推進に対する今後の抱負や目標、また、様々な女性の意欲を高め、その持てる能力を最大限発揮できるようにするための独自の取組や施策を紹介する報告書を作成する予定です。特集ページでは、「女性活躍を推進する上での鍵は？」「他組織とどのよう

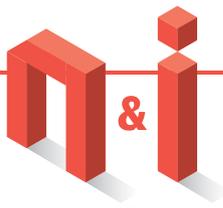
に連携しているか？」もご紹介します。

以下のサイトからダウンロードできますので、ぜひご一読ください！（12月中旬掲載予定）

http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders_sandousya.html

行動宣言

輝く女性の活躍を加速する
男性リーダーの会



[News & Information]

1 News

国立女性教育会館 (NWEC)

企業を成長に導く女性活躍促進セミナー報告



10月18日(火)～19日(水)の2日間で、企業における女性の活躍促進の推進者、管理職、リーダーを対象に実施し、全国から100名を超える参加者がありました。

1日目は、都内の会場で「男女ともに活躍できるこれからの働き方」をテーマに、立命館大学の筒井淳也教授を講師に迎え、日本型雇用を含めた社会構造とその問題解決の方向性として政策介入が必要なことや、長時間労働の是正やエリア限定正社員枠の増加などが有効であることなどについて基調講演を行いました。

NWECからの情報提供に続き、パネルディスカッションでは、セブンイレブン・ジャパン、リコー、カルビーの3社から、多様な働き方を受入れ、社員の能力を引き出している仕組みや風土づくりについて報告がありました。どの会社からも、トップのメッセージの重要性、女性活躍と男性の働き方改革の両輪の取組、新しいフレックス制度の導入や評価制度のあり方について指摘がなされ、継続したダイバーシティの推進こそが重要であると結ばれました。

2日目は、アクションラーニングについての講義と手法を用いたグループワークを実施し、参加者の抱える課題の共有と解決策を検討しました。

3 Info

内閣府

「ダイバーシティ・マネジメントセミナー～ダイバーシティ時代における企業の戦略～」の開催



昨年度のセミナーの様子

内閣府男女共同参画局は経団連と共催で「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」を開催します。本セミナーでは、野村證券会長の古賀信行氏（東京開催）とBTジャパン社長の吉田晴乃氏（大阪開催）からダイバーシティ時代における企業の戦略についてご講演いただきます。また、パネルディスカッションとして、企業の先進的な取組やそれらを浸透させるための具体的な意識改革マネジメントについて討議します。皆さまのご参加をお待ちしております。

経団連と共催で「ダイバーシティ・マネジメントセミナー」を開催します。本セミナーでは、野村證券会長の古賀信行氏（東京開催）とBTジャパン社長の吉田晴乃氏（大阪開催）からダイバーシティ時代における企業の戦略についてご講演いただきます。また、パネルディスカッションとして、企業の先進的な取組やそれらを浸透させるための具体的な意識改革マネジメントについて討議します。皆さまのご参加をお待ちしております。

■日時・場所（いずれも参加無料です）

東京開催 2017年1月19日(木) 10時～12時

経団連会館2階経団連ホール

大阪開催 2017年2月3日(金) 14時～15時30分

リーガロイヤルホテル大阪2階 桐の間

※参加申し込み・詳細はホームページをご覧ください

<http://www.cao.go.jp/wlb/event/meeting.html>



2 News

国立女性教育会館 (NWEC)

アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー実施報告



10月3日(月)～7日(金)に「若年女性のキャリア形成」をテーマとして実施。5カ国（韓国、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ミャンマー）から、男女共同参画に携わる行政担当者やNGOのリーダー10名が参加しました。

研修生は、NWECにて女性教育情報センターや女性アーカイブセンターの見学、カントリーレポートの報告を行い、各国における最新の男女共同参画政策や若年女性を支援するにあたっての課題を共有しました。

他にも都内の各機関を訪問しました。内閣府男女共同参画局では日本政府の男女共同参画についての講義を受講し、男女共同参画センターやNPO法人では、若年女性を対象とした地域に根ざした女性支援の取組について学ぶとともにスタッフとの意見交換も行い、日本の取組について理解を深めました。また、東京都立農芸高等学校では、校内視察後の意見交換において、自国の中等教育をめぐる課題と比較しながら活発な意見が交わされました。

振り返りのセッションでは「日本の教育機関を訪問し、教育が若年女性のエンパワーメントに果たす重要性を改めて認識した」などの意見が出ました。

男女共同参画センターだより

News From Center

奈良県女性センター

奈良県健康福祉部こども・女性局

奈良県女性センターは、昭和61年4月に「婦人の文化の向上と社会参加を促進し、もって婦人の社会的地位の向上と福祉の増進を図る」という目的の下に開設し、今年で30周年を迎えました。10周年となる平成7年に「ならの女性生活史」編纂委員会により『花ひらく-ならの女性生活史-』が発行されました。15周年の平成13年には、奈良県男女共同参画推進条例が制定され、20周年の平成18年度から平成27年度までの10年間は「なら男女GENKIプラン」（奈良県男女共同参画計画（第2次））に基づき



女性センター外観

事業に取り組んできました。

当センターでは男女共同参画社会を推進するため、①講座、研修会の開催、②相談事業、③女性団体支援、④情報提供を4つの柱として事業を推進しています。

相談事業には、「女性相談」、「男性相談」、「働く女性支援相談」の3種類がありますが、「女性相談」、「男性相談」とも「心・身体」、「夫婦関係」に関する相談が多く、「働く女性支援相談」では、「求職活動」や

「職場の人間関係」に関する相談が多くなっています。このことを踏まえ、個々の生き方や社会の問題を男女共同参画の視点で考える講座に加え、男性を対象とした男女共同参画を考える講座、再就職・起業を応援する講座やコミュニケーションやストレス緩和などの講座を開催しています。相談員に対しては「DV被害者支援を考える」講座等を実施しています。

また、登録女性団体はそれぞれ地域で活動されていますが、毎年、男女共同参画週間にあわせて開催される「なら男女共同参画週間イベント」

では、実行委員会を結成し日頃の活動成果を発表しています。

平成28年3月に「奈良県女性の輝き・活躍促進計画」（第3次奈良県男女共同参画計画）が策定されました。当センターは計画を周知するためのフォーラムの開催やジャーナルの発行を行うほか、「男女がともに支える暮らしやすい奈良県」「多様性と活力に富んだ奈良県」を実現するため、さらに効果的な事業を展開してまいります。

編集後記

今月号の特集で取り上げました「男女共同参画に関する世論調査」の結果は、誌面の都合で一部しか御紹介できませんでしたが、皆様、どのように捉えられましたでしょうか？

だんだんと寒くなってまいりました。我が家ではこれまでテーブルタイプのこたつに、イスの組み合わせを長く続けていましたが、今年から、昔ながらの座卓タイプのこたつに、ローソファの組み合わせに買い替えました。

こたつから抜け出せない冬になりそうです。

（編集デスク U.M）

【12月号表紙】

来年は今年よりも良い生き方、働き方が実現できる社会になりますように。

デザイン／鈴木明子

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」12月号

<http://www.gender.go.jp>

<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/>

第96号●2016年12月10日発行
編集・発行●内閣府
〒100-8914

東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話●03-5253-2111（代）
印刷●日昇印刷株式会社



国際女性会議

World Assembly for Women



WAW! 2016

国内外から女性分野で活躍するトップ・リーダーや著名人が白熱した議論を交わします!

Leaders and leading figures from Japan and around the world will discuss women's issues!

12/13 [火] ▶ 14 [水]

グランドプリンスホテル新高輪

東京都港区高輪 3-13-1

December

13 [Tue] ▶ 14 [Wed]

Grand Prince Hotel New Takanawa

3-13-1 Takanawa, Minato-ku, Tokyo

12月13日(火) 15:00-17:30

公開フォーラム

基調講演

マーニー・レヴィーン
インスタグラム最高執行責任者(COO)

パネルディスカッション

- 女性が担う平和な社会づくり
- スポーツと女性

December 13 (Tue) 15:00-17:30

Public Forum

Keynote Speech

Marne Levine
Instagram Chief Operating Officer(COO)

Panel Discussion

- Building peace in society by women
- Sports and women

12月14日(水) 10:00-17:30

ハイレベル・ラウンドテーブル

サイエンス&テクノロジー/女性のリーダーシップ
ワークライフ・マネジメント/女性の健康/女性・平和・安全保障

スペシャルセッション

ユース/地方からのイノベーション

December 14 (Wed) 10:00-17:30

High-Level Round Table

Science and Technology/Women's Leadership
Work-Life Management/Women's Well-being/Women, Peace and Security

Special Sessions

Youth/Innovation from local communities

シャイン・ウィークス公式イベント募集中

WAW!の開催趣旨である「女性が輝く社会づくり」に賛同し、一緒に盛り上げていただける公式サイドイベントを募集中です。詳しくは外務省ホームページをご覧ください。

Call for Official Side Event for Shine Weeks

We are calling for women-related events which generate movements for "A Society where Women Shine". Please register with us to have your events recognized as an official side event for Shine Weeks. Please visit the MOFA website for more details.

検索

WAW! 2016

QRコードでのアクセスは
コチラから! ▶▶▶▶▶▶



主催：日本国政府